



「社会貢献」と「利益」の両立を追求。 関わるすべての人を幸せにする仕組みをつくる

出身地
兵庫株式会社Heart Bridge 代表取締役
高橋 充

兵庫県尼崎市出身。大学卒業後、建築資材メーカーにて営業職に従事。入社3年目でトップセールスを記録。その後、光通信系列のグループ企業へ転職し、さらに営業力を磨く。組織の枠に縛られない働き方を求め独立。当初は介護施設などを対象とした省エネコンサルティング事業で実績を上げる。現在は、環境保全と障がい者就労支援を融合させた、「ゴミを炭に変えるプロジェクト」を展開。「利益」と「社会貢献」の両立を掲げ、次世代の雇用創出に注力している。

友人の窮状を救いたいという思いから始まった、 省エネ事業



サラリーマン時代に、「もっとこうすれば良くなるのに」という構想が浮かんでも、大きな組織の中では実現しづらいもどかしさを感じていました。営業職として磨いたスキルを武器に、既存の枠組みにとらわれない事業を一からつくり上げたいと考えたことが、創業の原点です。最初に手がけたのは、高齢者施設や病院をターゲットにした省エネ事業です。きっかけは、高齢者施設で働く友人の話でした。夜勤もある過酷な

労働環境にもかかわらず、手取り給与が16～17万円ほどしかない聞き、衝撃を受けました。少子高齢化が進む日本で、介護現場を支える人々がいなくなれば社会は成り立ちません。そこで、前職で培った省エネ商材のノウハウを活かし、施設の固定費を削減してその分を従業員に還元できないかと考えたのです。最初はテレアポでの開拓から始め、現在では約1,500施設とお取引いただくまでに成長しました。LED導入や節水・節電の提案で経費削減を実現してきましたが、近年は燃料調整費などの高騰により、削減効果を感じにくいという課題にも直面しています。「何のためにこの事業をやっているのか」と自問自答する中で出会ったのが、産業廃棄物を炭に変える技術でした。現在は投資型フランチャイズというスキームで、障がい者の就労支援と環境保全を両立する新事業に挑戦中です。これまでの経験とご縁がつながり、社会に深く貢献できる事業へと進化を続けています。

「ゴミを炭に変える」革新的な技術と、 就労支援の融合

現在注力している新規事業は、産業廃棄物を炭に変えるリサイクル事業と、障がい者の就労支援を組み合わせたものです。大阪の高槻市で、ゴミを炭にできる機械を開発している方とのご縁から始まりました。通常、事業から出るゴミは産業廃棄物として処理され、最終的には埋め立てや焼却処分となりますが、焼却は多くの二酸化炭素を排出します。「お金を払って地球を汚している」という矛盾を解決できるのが、この炭化技術です。この作業を就労継続支援B型事業所で行うことで、障がいをお持ちの

方々の新たな働き口を創出しています。北海道にある障がい者施設での成功事例がきっかけでした。「産業廃棄物を資源に変えて社会に貢献する」という仕事は、働いている方々に大きなやりがいをもたらし、親御さんからも喜びの声をいただいています。私たちの強みは、「環境貢献」と「就労支援」を掛け合わせ、さらに投資家を巻き込んだ「投資型フランチャイズ」として仕組み化した点にあります。投資家には収益を、施設には仕事とやりがいを、社会には環境保全を提供する、関わるすべての人にとってプラスになる事業モデルです。また、私が営業において大切にしているのは「嘘をつかない」ことです。飾らず本質を伝えることで築かれる信頼関係こそが、長く続くビジネスの基盤になると信じています。

野球での挫折とサラリーマン時代の 違和感から生まれた、信念を貫く強さ



私の人生の大きな転機は、学生時代の野球での挫折です。高校への推薦入学が決まっていた矢先に脱臼し、推薦の話が消滅しました。それまでの順風満帆な野球人生から一転、挫折を味わい、自分の傲慢さを痛感。同時に、そんな状況でも支えてくれる人々の温かさに触れ、「裏切られてもいいから、自分は人を信じ抜く」という今のスタンスが形成されました。社会人になってからは、サラリーマンとしての働き方に違和感を覚えることもありました。決められた時間に縛られる窮屈さや、納得のいく指示でなければ従えない、そんな自分の性格に気づいたのです。前職での独特な返事の強要に対しても、「売上につながらないなら、意味がない」と反発したこともありました。組織人としては扱いにくい存在だったかもしれませんが、妥協できない性格だからこそ、独立して自分の道を切り開けたのだと思います。新規事業の立ち上げ時も、周囲からはネガティブな意見が多くありました。しかし、「この事業は絶対に社会のためになる」という信念を持ち続け、

泥臭く行動し続けた結果、ようやく形になりつつあります。失敗や反対を恐れず、自分の感覚を信じて突き進むことが、経営者としての私の強みです。

障がいを持つ方が安心して働き、 自立できる社会へ。

今後の展望として最も力を入れているのは、障がいをお持ちの方々の就労環境の改善です。現在、ヘルパーの介助が必要な重度障がい者の就労率は日本全体でわずか5%ほどです。企業側の雇用ハードルの高さや自治体支援の不足が課題ですが、行政の対応を待つのではなく、民間企業として解決していきたいと考えています。具体的には、現在の炭化事業の収益性を高め、年間数千万円規模の利益が出せる事業体を増やすことで、ヘルパー雇用込みでも重度障がい者を受け入れられる環境をつくります。そして、就労継続支援B型からA型、さらには一般就労へとステップアップできるキャリアパスを構築するつもりです。事業収益を働く人々の給与や環境改善に還元し、障がいがあっても経済的に自立し、誇りを持って生きられる未来を実現したい。それが目標です。現在、大阪の高槻市を中心に実証を進めていますが、今後は近隣自治体や全国へ広げていく予定です。AIの進化で単純作業が減るこれからの時代こそ、人の手による仕事や社会貢献性の高い事業が価値を持ちます。「自分の仕事が地球環境を守っている」と胸を張って言える仕事を創出し、関わる人すべてが幸せになれる循環を日本中に広げていくこと。それが私の使命であり、これからの挑戦です。

今の環境に満足せず、もがき続けてほしい

これから社会に出る学生の皆さんに伝えたいのは、「経験に勝るものはない」ということです。そして、「考えることをやめないでほしい」と強く思います。会社に入ると、その場所の常識がすべてだと思いがちですが、今の環境がベストなのか、もっと良い方法はないのかと常に問い続けてください。私自身、サラリーマン時代の違和感や、うまくいかずにもがいた時間があったからこそ、今の事業にたどり着けました。もし悩みや不満があるなら、一人で抱え込まず、まわりの大人や経営者に相談してみてください。意外と親身になってくれるものです。特に経営者は、若者の悩みや挑戦を応援したいと思っている人が多いので、恥ずかしがらずに思いを言葉にすれば、新しい道が開けることもあります。私たちの会社はまだ完成された組織ではありません。だからこそ、マニュアル通りではなく、「自分ならこうしたい」と主体的に考え行動できる人と一緒に働きたいと思っています。若い皆さんの柔軟な発想やエネルギーは社会を変える力になるはずです。失敗を恐れず、若いうちにたくさん挑戦し、もがいてください。その経験すべてが、将来のあなたを支える財産になります。

株式会社
Heart Bridge